

令和 7 年度東京都立つばさ総合高等学校経営報告

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

ア キャリア教育

令和 4、5 年度に「産業社会と人間」「人間と社会」「総合的な探究に時間」プロジェクトチームで検討したことを踏まえた内容を実施した 2 年目である。令和 7 年度からは NPO と連携して系統的なキャリア教育をさらに推進するため、さらに令和 8 年度に教育課程を改訂するためのプロジェクトチームを立ち上げ、系列の特色を精選し、魅力ある授業を実践できるよう検討を重ねてきた。

イ 学習指導

全ての教科において「つばさスキル」を意識した授業実践を推進するとともに、特色ある系列科目での専門性の高い授業力の向上を図ってきた。加えて、新しい学びの基盤プロジェクトを踏まえた都立 A I の活用等の授業実践を行ってきた。

ウ 生活指導

前年度に引き続き、登校時のマナーや自転車通学時の交通ルール違反について近隣から指摘を受けることがあり、登校時のマナーや交通安全について継続しての指導を行ってきた。また、全生徒がヘルメット購入率は維持できているが、使用率は 20% 程度と低いいため、継続的に指導していく。

特別支援コーディネーター及び養護教諭、スクールカウンセラーを中心に、生徒一人一人の相談体制の充実を図った。1 年次は全員面接を実施し、いじめ、不登校、問題行動等の未然防止に努めた。毎月特別支援教育委員会を開催し、気になる生徒への対応策を協議し、問題の芽を早期に摘む対応をした。

いじめ防止についてはアンケート調査等を実施し問題拡大を防止した。

エ 健康づくり

生徒の健康づくりについては、特別支援教育コーディネーターを中心に、S C を交えた特別支援教育委員会を毎月開催した。この中で様々な問題を抱えた生徒の情報を共有し、学校として一人一人に適した支援を検討し S C や Y S W 等と連携し継続的な支援に繋げた。

また、精神科専門医の協力を得ながら不登校や発達障害等、課題のある生徒への積極的な関わり方を研修し、実践を行ってきた。適宜、保健講話、熱中症防止講話等を開催した。

熱中症対策として、プロジェクトチームを立ち上げ、ポロシャツの導入を決定し、健康管理の促進を図った。

オ 特別活動

部活動においては、各部とも主体的な生徒の活動を目標に活動することができた。また、複数の部活動で部活動指導員を活用し複数顧問がチームで対応する体制を構築し、持続可能な部活動を推進しており、主顧問を定めない調整担当による指導体制を確立した。

行事についても、生徒の主体的な活動となることを意識し、飛翔祭（体育祭）銀翼祭（文化祭）結翔祭（産社・探究発表）奏翼祭（合唱コンクール）を実施することができた。

カ 特色ある教育活動

地道な教育活動として福祉部が東京都教育員会表彰（児童・生徒表彰）を受賞した。

キ 募集対策活動

学校説明会では、生徒による校内施設紹介、生徒が中学生及びその保護者と語り合う場を設けることができた。さらに、中学校訪問を再開するとともに、出前授業・進路講演会講師派遣を積極的に行っていた。

推薦選抜においては昨年の1.82倍から2.01倍へ、学力選抜においては前年度の1.03倍から1.12倍へと微増した。次年度も訪問中学校エリアの拡大、系列の授業を体験している2年次生の母校訪問の企画、城南地区合同説明会の本校会場の実施など、組織的な募集対策活動を更に充実させる。

ク 学校経営・組織体制

「キャリア教育」の充実のため、引き続き「産業社会と人間」「人間と社会」「総合的な探究に時間」について校内で改訂作業を進めるとともに地域教育支援部の支援を受け、NPOとの連携を進めることができた。次年度はNPOの活用を新系列での新教科・科目の開発に活用し、国際交流・地域探究の推進に努める。

ケ 防災教育

避難訓練では、1月に地域の消防署員の方を招き防災訓練と防災講話を実施した。また、今年度から生徒の防災士取得の推奨をうながし受講した結果、合格者させることができた。

(2) 重点目標への取組と自己評価

(◎：大幅達成、○：達成、△：やや未達成、×：大幅未達成)

NO	項目	内 容	評価
1	キャリア教育	「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」の発表会実施	◎
		年次ごとの委員会での研修体制の確立と外部機関の活用	○
		教科指導と一体化したキャリア教育の推進	△
		キャリア教育に基づいた進路実績の確立	○
2	学習指導	教科会の充実と、相互研究授業の促進	△
		課題解決能力・プレゼンテーション力・コミュニケーション力の育成	○
		教員が長期休業中を中心に一人10時間以上の補習・講習の実施	△
		各種資格受検や技能習得の奨励	○
3	生活指導 特別活動	各種行事の充実 対外試合の結果等、部活動の成果	○
		部活動と規律と自学習のバランス良い高校生活	○
4	環境教育 防災	ゴミの分別等美化活動の発展・維持	○
		消防署等の関係機関と連携した防災への取組と救急救命訓練等の活動の充実	○
		ISO14001の登録終了に伴う環境教育の維持・発展・向上の推進	△
5	家庭・地域	全年次全生徒対象年1回の三者面談・保護者面談	◎
		部活動地域貢献の拡充 地域小中学校等との連携	○
		PASTAとの連携	△
6	募集対策	SNSでの行事概要発信と部活動紹介動画作成	○
		HPの更新回数向上と内容の充実	○
		入選倍率を推薦2.0倍、学力検査1.2倍以上	△

7	経営・組織	防災教育を推進する学校の円滑実施と防災対策の充実	○
		系列や教育課程の一層の充実	◎
		事務管理・運営の効率化と安全で快適な学校環境の維持	×

2 次年度以降の課題と対応策

課 題	状 況	方 策
「キャリア教育」の充実	<p>3年間を見通したキャリア教育の充実を進めている。</p> <p>結翔祭を通じて外部発信の機会を立ち上げた。</p> <p>履修における意識付けが今後の課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアカウンセラーによる面談の実施 ・「産業社会と人間」「人間と社会」「総合的な探究の時間」各委員会における教員間の共通認識の確立 ・外部機関（NPO法人F o r a）の活用を積極的に行い、上記の3委員会での指導案以外にも新6系列の魅力ある新科目（学校設定科目）への企画立案にも活用していく。 ・学校外学修の制度の理解を深めさせ、各種資格・検定受験の機会を増やす。
学習指導及び学力向上	<p>履修選択や課題研究など、総合学科高校の強みを活かした進路指導を推進している。近年の大学進学希望者増加への対応を強化していく。</p> <p>I C T活用及びオンラインにおける授業実践は概ね達成できているが生成A Iの活用及び新しい学びの導入は今後の喫緊の課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に選択の幅を広げた再編後の6系列を意識させ、進路実現につなげていく。 ・並行してキャリアカウンセラーを中心とした組織的な進路指導を実践し、履修指導を徹底する。 ・学校推薦型選抜等の入試に対し、外部機関とも連携した面接指導を推進する。 ・オンライン（動画）含めて、放課後補習・夏季講習等の充実をはかる。 ・スタディーサポートを有効活用させる。C l a s s i及びT e a m sの稼働率を向上させる。

<p>基本的な生活習慣の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車登校についてヘルメット購入率は100%であるが着用率は20%程度である。 ・遅刻指導を実施し、一定の成果につながった。遅刻常習者は2名程度だが、通算遅刻数は全校生徒合計で4000回を超えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して年次、生徒部、教務部が連携して実態を把握し、数値を提示して遅刻しない意識を高める。 ・身だしなみ指導について、生徒会を中心に今後の在り方を考えさせるとともに保護者に方針を周知し、協力を図る。制服については、プロジェクトチームを立ち上げ、改訂・追加を検討する。
<p>特色ある教育活動の充実（環境教育・国際理解・地域探究、防災その他）</p>	<p>環境教育等について、ISO14001登録終了を経て、美化委員会や緑化委員会等、関係する生徒は意識して取り組んでいる。今後は、環境の新系列にて興味をもって受講する生徒による取組を推進していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特色ある教育活動を系列名称に取り入れ、名称に見合う教育活動を令和11年度までに系列としての完成を目指し、新科目を立ち上げていく。そのためのプロジェクトチームを継続していく。
<p>家庭・地域との連携</p>	<p>全年次三者面談を実施している。現状として書面や電話だけでは連絡が取りにくい家庭もある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域」を軸とした新系列を立ち上げ、家庭のみならず地域とのコミュニケーションの促進を図る。地域探究を特色ある教育活動と位置づけ新系列・新科目での地域探究の教育活動を促進していく。
<p>募集対策のさらなる改善</p>	<p>推薦・学力とも数年ぶりに倍率は確保したが、辞退者4名のため、二次募集の実施となった。中学校訪問等で、普通科科目以外のPRの促進を推進した。</p>	<p>新6系列のPRを軸に、本校独自科目・教育活動を中学生に見えるように広報活動を推進し、普通科高校との差別化、私学との差別化を図り、第三の学科としての特色を城南地区での再度の浸透を図る。（城南地区合同説明会・中学校訪問・母校訪問の再開）</p>
<p>学校経営・組織運営</p>	<p>令和7年度は、過員配置等で人員が充足されたため、組織運営を維持できたが、開校当初からの比較で教員定数減に対応した分掌組織の改編が急務である。</p>	<p>プロジェクトチームを編成し分掌・委員会組織の再編を行い、業務の精選に取り組む。</p>

総合学科教育理解の促進	総合学科教育の理念の共通理解・共通実践が不十分である。 教職員全員が総合学科高校の特徴と強みを理解し、広報活動への協力体制を確立する必要がある。	・校内研修を実施する。 ・総合学科教育成果発表会、研究大会、学校視察、都総研への参加を奨励する。
-------------	---	---